

(案)

① 申請者	◎鳥取県鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町、兵庫県香美町、新温泉町	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
麒麟 <small>きりん</small> が舞う風の大地—因幡 <small>いなば</small> ・但馬 <small>たじま</small>			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
<p>中国地方の北側に位置する因幡・但馬地方では、日本海から吹き寄せる厳しく冷たい北西の季節風が雪を降らせ、波を叩きつけ、砂を運んでいる。雪は急峻な山に杉林を育て、波は海岸を削り、切り立った崖や奇岩に囲まれた薬研のような入り江を形づくり、砂は松の緑の中に忽然と出現する大砂丘を生み出した。</p> <p>雪・波・砂の賜物を享受するこの地において、麒麟獅子舞も風に乗るがごとく伝わり、人々に安寧をもたらす存在として共通のよりどころとなっている。</p> <p>この地には、風がもたらす雪・波・砂などの厳しい気候を味方に、麒麟獅子舞を共通の支えに逞しく生き抜いてきた人々の歴史が息づいている。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>			
⑤ 担当者連絡先			
担当者氏名	①鳥取市教育委員会 文化財課 佐々木孝文 ②鳥取市企画推進部 文化交流課 平井 宏和		
電 話	①0857-20-3359 ②0857-20-3226	FAX	①0857-20-3050 ②0857-20-3040
E-mail	①kyo-bunka@city.tottori.lg.jp ②bunka@city.tottori.lg.jp		
住 所	鳥取市尚徳町116番地		

(案)

ストーリー

因幡・但馬の風の賜物

中国地方の北側の因幡・但馬地方は山陰東部に位置し、北は日本海、背後に標高1,000mを超える中国山地の高い山々が連なっている。

この地域に吹き寄せる日本海からの激しい北西の季節風は、「山雪」と言われる1m以上の積雪を山間部にもたらし、鉛色の海から海岸を削る荒波を起し、砂丘を形づくる砂を運んでいる。

山間部に広がる黒々とした杉林は枝がすべて下向きに成長し、豪雪が育てたことを物語っている。海岸部に見られる「かえる島」、「龍宮洞門」、「獅子の口」などの動物や伝説上の生き物の形をした奇岩、薬研のような入り江、高さ100mを超える切り立った崖は、荒波が海岸を削り取って造形したものである。

海の青と松の緑の中に忽然と現れる鳥取砂丘では、風が砂を動かし続けた結果、高低差が90mにもなる起伏に富んだ地形やさざ波模様の風紋に出会うことができる。

これらは、冷たく吹きつける冬の季節風の賜物によるものである。



荒波が削った岩石海岸「浦富海岸」

山間部に見える「雪」の賜物

杉林の中に堂々と佇む「重要文化財 石谷家住宅」^{いしたにけいじゅうたく}は、大正期に築造された山間部の繁栄を象徴する豪邸で、3,000坪の敷地の中に7つの蔵を持ち、40もの部屋を有する。主屋の土間に入ると直径が66cmもある巨木を使った梁組が14mの高さに組み立てられており、訪れる人々を圧倒させる。

こうした大邸宅は、明治時代の山林経営の隆盛によるもので、山を生業とし、木の恩恵を受けてきたことにより生まれたものである。この地の寒暖の差は四季を通じて激しく、特に冬の季節風による豪雪は、枝が折れにくい杉の優良大径木を生み出し、人々に多くの富をもたらしたのである。人々の杉への感謝の念は、杉の精霊を祀る白い三角形を御神体とする「杉神社」となって表れている。

また、木材、木炭の輸送路として栄えた山あいを走る「若桜鉄道若桜線」^{わかさてつどうわか}に乗ると、昭和初期の開業時に建てられた小さな木造の駅舎の中に、木の温もりが伝わる木製の改札やベンチが置かれ、まるで生きているかのような表情の案内係^{かかし}たちが各駅で出迎えてくれる。

若桜鉄道は、森林資源を運ぶために敷設されたもので、林業の繁栄によるものである。

山からの落雪を防ぐ片流屋根のトンネルを抜け、除雪した雪を流す線路脇の流雪路を横目に終着駅を降りると、豪雪対策として家と道路の間に造られた「カリヤ」と呼ばれる4尺^{ひさし}庇のアーケードが通りに沿って続いている。

これは、明治18年の大火を契機に、住民自らが都市計画を決定し、手掛けたものであり、人々は、悪天候の日でも「カリヤ」の下で交流することができた。これらもまた雪の賜物である。



宿場町の大邸宅 石谷家住宅



若桜鉄道若桜線の駅舎



庇のアーケード「カリヤ通り」

海岸部に見える「波」の賜物

青く透き通った日本海の内海を歩けば、菜の花が咲く切り立った崖やトンネル状に穴の開いた岩に松が息づく島などが間近にそびえ、遊覧船もターンできる程大きな洞窟やかえるに似た奇岩などを随所に見ることができる。漁村は、風波により彫刻された岩石が連なる薬研のような入り江や崖上などの人の往来が困難な

場所に点在し、そこには松葉ガニ漁や白イカ漁の拠点となる港が賑わいを見せ、赤や黒の屋根瓦葺き、建物を板囲いした家が重なり合うように軒を連ねている。

海面から約170mの崖上の伊笹岬の先端に立地する「御崎集落」は、荒波を逃れて選地されたものである。このような立地のため、他の集落との交流が隔絶され、平家の落人の伝承や儀式が残ったのである。

漁村の立地や家々の佇まいは、江戸時代以降、激しく吹き寄せる潮風や風雨、風雪に備えるために普及したものであった。



船で巡る青い洞窟（但馬御火浦）



崖上に佇む御崎集落

海岸部に見える「砂」の賜物

鳥取砂丘の一角は、10月になると赤紫色の可憐な花がまるで絨毯を敷き詰めたかのように一面に咲き誇る光景を目にすることができる。これは、約120ヘクタールにも及ぶらっきょう畑である。

らっきょうの栽培は、江戸時代末期に参勤交代の付き人が江戸からその種を持ち帰ったことが始まりとされる。起伏の大きさから耕地化されずにいた広大な砂丘地に、砂の移動を抑える防風林を整備し、現在のらっきょう畑が形成されたのである。

水はけのよい砂地で育つらっきょうは、シャキシャキとした歯触りとなり、透き通ったその姿は「鳥取砂丘の白い宝石」と言われ、全国で有数の品質を誇る。



らっきょうの花畑

風に舞う「麒麟獅子舞」の賜物

この地では、緋色の衣装と黄金に輝く一角をもつ頭を纏った「麒麟獅子舞」という民俗芸能が約180の村々に継承され、安寧への願いを込めて、400年経った今も舞われている。

麒麟は、他の生き物を傷つけない泰平の世の象徴とされた霊獣で、江戸時代前期に、初代鳥取藩主となった池田光仲が造り上げた鳥取城下町に、偉大な曾祖父・徳川家康を祀る「鳥取東照宮」を建立し、その祭礼行列で華やかに登場したとされる。この祭礼は、城下町の町人や農村、漁村の有力者たちも参加を許され、きらびやかな麒麟獅子舞を初めて見た人々は、自分の村の祭りにも取り入れたいと強く願い、明治維新により池田家が去った後、山村、漁村などへ広がり、受け継がれていった。



麒麟獅子舞

北西の季節風がもたらす雪・波・砂の賜物を享受するこの地において、麒麟獅子舞も風に乗るがごとく伝わり、人々に安寧をもたらす賜物として共通のよりどころとなっている。

麒麟が舞い、風が舞う因幡・但馬

因幡・但馬の地は、日本海から吹き寄せる風と大地と人の共生の地であり、雪・波・砂などの厳しい気候を味方に、麒麟獅子を共通の支えに逞しく生き抜いてきた人々の歴史が息づいている。

麒麟獅子に誘われ、高く険しい山あいの村を歩き、切り立った岩石や広大な砂丘が間近に広がる海辺の村を訪れば、風が創り出した自然の風景美と麒麟獅子をよりどころに、風がもたらす雪・波・砂を糧として暮らしを向上させてきた人々の生き方を追体験できる。

日本遺産—地域活性化計画 概要（案）

（１）将来像（ビジョン）

風が創り出した風景美や文化的景観とそこで舞われる「麒麟獅子舞」などの文化財をパッケージとする周遊ルートや体験プログラム、観光商品など、新たなブランドを開発し、滞在型・周遊型の観光を推進する。また、日本遺産の普及啓発による圏域の活性化や人材育成、受入環境の充実を図るとともに、国内外の観光客の獲得に向けた情報発信等の取り組みを積極的に展開する。

（２）地域活性化のための取組の概要

- ①日本遺産「麒麟のまち」魅力発信推進協議会（仮称）による民間主導の魅力づくりの推進
- ②麒麟のまちエリアブランディングによる国内外への情報発信
- ③日本遺産による圏域機運の醸成と普及啓発・人材育成
- ④史跡鳥取城跡、鳥取東照宮等の整備と魅力の向上
- ⑤日本遺産を発信する拠点整備など受入環境の充実
- ⑥広域連携による人・モノの交流の活発化と交流人口の拡大

（３）自立的・継続的な取組

日本遺産を通じた圏域の活性化の推進にあたっては、「鳥取・因幡観光ネットワーク協議会」を発展改組し、平成 30 年に DMO「麒麟のまち観光局（仮称）」を設立する。その基本戦略の中で、マーケティングや着地型観光企画商品の磨き上げ、開発・販売、プロモーション活動等を位置づけ、稼ぐ力を身につけ、自立へとつなげる。

（４）実施体制

◆協議会の名称

日本遺産「麒麟のまち」魅力発信推進協議会（仮称）

◆構成団体（予定）

1 市 6 町、因幡・但馬の麒麟獅子舞の会、1 市 6 町観光協会、麒麟のまち観光局（仮称）、(株)地域商社とっとり、鳥取商工会議所、1 市 6 町商工会、宿泊事業者、交通事業者 等
※運営にあたっては、専門部会（事業推進部会、広報部会等）を設け、円滑な推進を図る。

(5) 実施事業

- ◆補助事業：日本遺産魅力発信推進事業（文化庁補助事業）
- ◆対象期間：平成30年度～32年度　3年間
- ◆実施事業：以下のとおり

〔情報発信分野〕

- ①ホームページの制作
- ②麒麟獅子舞VRコンテンツの制作
- ③ガイドブックの制作
- ④PRポスターの制作
- ⑤プロモーション映像の制作
- ⑥留学生等と連携したSNSによる海外への情報発信
- ⑦周遊モデルコースPRチラシの制作
- ⑧国内メディアを活用した情報発信（TV、雑誌、ITメディア等を活用）
- ⑨国際イベント、メディアを活用した情報発信（香港、台湾など東アジアを主ターゲットとする情報発信）

〔人材育成分野〕

- ⑩ガイドの育成
- ⑪こどもガイドの養成

〔普及啓発分野〕

- ⑫「日本遺産展」の開催（麒麟獅子舞をはじめとする構成文化財等の写真展など）
- ⑬「日本遺産認定シンポジウム」の開催
- ⑭大都市圏における「日本遺産PRイベント」の開催（関西情報発信拠点「麒麟のまち」等）
- ⑮ワークショップ&スタンプラリーの開催（麒麟獅子舞の体験等）
- ⑯周遊バスツアーの実施（関西在住の外国人、旅行会社・メディア等を対象とするモニターツアー）
- ⑰ゆるサバ（ゆるいサバイバル）ツアーの実施

〔公開活用のための整備分野〕

- ⑱「麒麟のまち」日本遺産発信センターの整備（鳥取市内の既存文化観光施設内）
- ⑲「麒麟のまち」日本遺産PRコーナーの設置（圏域20か所程度の既存文化観光施設内）
- ⑳構成文化財案内板の整備
- ㉑構成文化財のデジタルデータ化の保存（麒麟獅子舞の写真撮影、データ化・ポスター製作）